

第32回全国育樹祭併催行事

# 育林技術交流集会

循環 ～世代をつなぐ森林づくり～

平成20年10月25日(土) 久万高原町産業文化会館 (久万高原町久万188番地) 主催 / (社)国土緑化推進機構・愛媛県



育てよう 緑あふれる 日本の未来

第32回 全国育樹祭

第32回全国育樹祭愛媛県実行委員会



記録誌



愛媛県中予地方局  
産業経済部長

渡部 雅人

ただ今より、「循環～世代をつなぐ  
森林づくり～」をテーマに、第32回全  
国育樹祭併催行事「育林技術交流  
集会」を開会いたします。

## 開催概要

第32回全国育樹祭の併催行事として、育樹祭の開催を県民参加の森林づくりを推進する契機とするため、幅広い参加を求め講演聴講や意見交換を行う育林技術交流集会を開催しました。

林業は、自然の営みを尊び、世代を越えて森林に関わることにより、林産物を取獲し、その後の再生という循環を通じて社会に様々な恩恵を与える役割を果たしてきました。先人の努力により育成されてきた森林資源が一層充実するとともに、それに対する需要も高まりつつある今日、我々は先人たちの英知と健全な森林・林業をしっかりとしつと次世代に引き継ぐ責務があると考えます。

- 主 催 (社)国土緑化推進機構、愛媛県
- 後 援 四国森林管理局、愛媛大学農学部、愛媛県市長会、愛媛県町村会  
(財)愛媛の森林基金、愛媛県森林組合連合会、(社)愛媛県木材協会  
愛媛県林業振興会議、(財)えひめ農林漁業担い手育成公社  
愛媛県林業改良普及協会、愛媛県林業研究グループ連絡協議会  
愛媛県林業経営者協会、愛媛県林業架線・機械技士協会  
久万高原町、久万林業まつり実行委員会

- 開催日 平成20年10月25日(土)
- 会場 久万高原町産業文化会館(久万高原町久万188番地)
- 参加者 500名
- テーマ 循環～世代をつなぐ森林づくり～
- 内 容

アトラクション／久万山五神太鼓(久万山五神太鼓保存会)

特別講演／

人生苦あれば楽あり～我が野球人生と木づかい応援～  
プロ野球日本ハム元監督、マスターズリーグ委員会最高顧問 大沢 啓二

パネルディスカッション／

- 【テーマ】循環～世代をつなぐ森林づくり～
- 【コーディネーター】愛媛大学農学部長 泉 英二
- 【パネラー】愛媛県林業研究グループ連絡協議会長 増田 清
- 【パネラー】久万造林株式会社代表取締役 井部 健太郎
- 【パネラー】いしづち森林組合参事 永井 敦

## <育林技術交流集会次第>

- 11:30～12:00 受付・開場
- 12:00～12:05 開催地紹介
- 12:05～12:20 アトラクション
- 12:20～12:21 開会のことば
- 12:21～12:29 主催者あいさつ
- 12:29～12:37 来賓祝辞
- 12:37～12:41 歓迎のことば
- 12:41～12:45 日程説明
- 12:45～13:45 特別講演
- 13:45～13:55 休憩
- 13:55～15:25 パネルディスカッション
- 15:25～15:30 閉会のことば

## 目次

- 開催概要・開会のことば …… 1
- 主催者あいさつ …… 2
- 来賓祝辞 …… 4
- 歓迎のことば …… 6
- 特別講演 …… 7
- パネルディスカッション …… 8
- 閉会のことば・開催地紹介 …… 24
- アトラクション・開催状況 …… 25

## 主催者あいさつ



(社)国土緑化推進機構常務理事  
**立石 凱義**

本日、第32回全国育樹祭の併催行事として、「循環～世代をつなぐ森林づくり～」をテーマとした「育林技術交流集会」が、このように多数の方々にご参加をいただき、盛大に開催されますことは、主催者の一人としてこの上ない喜びであります。

ご来賓の皆様方には、ご多用中ご出席をいただき誠にありがとうございました。

また、本日、特別講演をお願いいたしましたプロ野球マスターズリーグ最高顧問 大沢啓二様、コーディネーターをお願いいたしました愛媛大学農学部長 泉 英二様を始めパネリストの方々にも、貴重なご講演、ご意見をいただくことにつきまして厚く御礼申し上げます。

さて、今年から京都議定書が発効することになり、我が国としても、世界的に約束している二酸化炭素の削減目標を達成することが求められているところですが、先の洞爺湖サミットにおきましても、地球温暖化問題が大きなテーマとなり、地球温暖化防止に重要な役割を果たしている森林や緑の重要性について、ますます国民の関心が高まってきているところです。

このかけがえのない森林を育成し、緑豊かな美しい国土を将来の世代に確実に伝えていくため、現在、政府と企業や森林ボランティア団体など民間が一体となって、「美しい森林づくり推進国民運動」が、全国で広範な国民の協力を得つつ展開されています。

日本には、昔から「木の文化」があり、日本人は暮らしの中に森林の恵みを取り込み、そして、豊かな「美しい森林」を育むという、森林を活用し、木を活かした循環型社会を実現して参りました。しかし、現在の我が国の森林は、林業の採算性悪化や山村の過疎化などにより元気がなくなり、森林の「植える―育てる―収穫する」という循環がくずれ、かけがえのない森林の機能の低下が危ぶまれています。今、もう一度、私たちの暮らしの中で、先人の英知と努力により育成されてきた森林との関係を見つめ直し、緑豊かな国土を将来の世代に確実に伝えて行くことが求められています。

このような意味から、本日のパネルディスカッションでは、育林に携わるの方々の中から、世代をつなぐ森林づくりに取り組んでいる林家、企業、森林組合からパネラーを選定し、各分野における取組状況等の話題を提供していただき、それぞれの立場から林業活動を通じて森林を適切に管理し次世代へつなぐ必要性等について議論していただくことは誠に時宜を得たものと思います。本日の意見交換が全国各地でこれらの運動に取り組んでおられます方々に対する新たなメッセージとなることを期待している次第です。

昭和52年の第1回育樹祭以来、毎年連綿と開催されております、この「育林技術交流集会」が、今後の育林技術の向上はもとより、木を活かした循環型社会をつくりだし、最終的に緑豊かな日本を再生していく「美しい森林づくり推進国民運動」を一層促進する契機となりますことを念願してやみません。

終わりに、本日の交流集会開催のために多大なご尽力をいただきました愛媛県はじめ関係の皆様方に心から感謝と御礼を申し上げます、主催者のご挨拶といたします。

平成20年10月25日

(社)国土緑化推進機構理事長 佐々木 毅(代読)



愛媛県知事補佐官  
**永野 英詞**

全国各地から多数の方々へ御参加いただき、「第32回全国育樹祭」の併催行事として、「育林技術交流集会」が盛大に開催できますことを、大変うれしく存じます。

さて、森林は、木材等林産物の供給はもとより、水源のかん養や国土の保全、地球温暖化を抑制するための二酸化炭素の吸収源など、さまざまな機能を有しております。しかしながら、近年、担い手の減少・高齢化をはじめ、森林・林業を取り巻く環境は依然として厳しく、十分な手入れが行き届いていない森林が増えており、森林本来の機能を回復し、持続的な保全を図ることが、喫緊の課題であります。

このため、本県におきましては、平成13年を「森林ぞ生元年」と位置づけ、森林の環境資源としての役割を重視した施策の推進に努めており、平成17年度には森林環境税を導入し、県民の参加と協力による「森をつくる」「木をつかう」「森とくらす」活動を展開しております。

今日は、各界各層の方々にお集まりいただきまして、「循環～世代をつなぐ森林づくり～」をテーマとした意見交換等を行い、森林資源の充実にとって重要である育林技術について、多くの皆様に理解を深めていただくこととしております。

先人が守り育ててきた、豊かで美しい森林を次の世代へと引き継ぐために、育林技術の発展は不可欠であり、この交流集会が、今後の森林整備の活性化につながる貴重な機会になることを期待いたしております。

終わりに、本交流集会の開催に御協力いただきました方々に深く感謝いたしますとともに、御参加の皆様方の御健勝と御活躍を祈念申し上げます、あいさつといたします。

平成20年10月25日

愛媛県知事 加戸 守行(代読)

# 来賓祝辞



林野庁研究・保全課長  
**渋谷 晃太郎**

育林技術の向上に努められ、地域林業の発展に寄与されていることに対しまして、厚くお礼申し上げます。

さて、今年からいよいよ京都議定書第1約束期間が始まり、新たな「京都議定書目標達成計画」が閣議決定され、国際公約である温室効果ガス6%削減の達成に向け、森林吸収により3.8%を確保することが、改めて政府の目標として位置づけられております。

森林吸収目標を達成するためには、幅広い国民の御理解と御協力を得ながら取り組んでいくことが重要であり、林野庁におきましては官民一体となって、森林吸収量確保に向けた330万ヘクタールの間伐と多様な森林づくりの推進を目標とした「美しい森林づくり推進国民運動」を展開しております。

当地久万高原町では、高性能林業機械を導入し、低コストで効率的な間伐に積極的に取り組んでおられると聞いており、ここに全国の林業関係者が一堂に会し、「循環～世代をつなぐ森林づくり～」をテーマに意見交換や相互交流を深められますことは、「美しい森林づくり推進国民運動」を実効あるものとする上でも誠に意義深いことと考えております。

本日の集いが育林技術の向上や新たな森林管理の方向を探る契機となることを期待いたしますとともに、皆様方におかれましても、今後一層の林業技術の研さんに努められ、地域における健全で美しい森林づくりを進めていただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本集會を開催されました愛媛県、社団法人国土緑化推進機構をはじめとする関係者の皆様方の御尽力に対し、改めてお礼申し上げますとともに、本集會に御参集の皆様方のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成20年10月25日  
林野庁長官 内藤 邦男(代読)



(社)全国林業改良普及協会長  
**西場 信行**

第32回全国育樹祭の併催行事である「育林技術交流集會」が、ここ愛媛県久万高原町において、多数の森林・林業関係者のご参加を得て、このように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

人類はその誕生以来、森林に依存して生きてきました。我が国でも、森の深い山は神々の住み家、巨樹は神の依り代として人々は畏敬の念を持ちつつ、森林の恵みを受けて生活してきました。しかしながら、近年、世界各地で森林の無秩序な開発・利用が進んできており、災害の発生、砂漠化の進行などその影響が周辺地域の人々に影響を与えるばかりでなく、地球温暖化の主要な原因の一つとして全世界の人々にも影響を及ぼしています。

このような状況に歯止めをかけ、人類が将来にわたって森林の恵みを楽しんでいくためには、持続可能な森林の管理および利用に全世界で取り組んでいくことが課題となっています。

我が国では戦中戦後に多くの森林の伐採、利用が行われましたが、伐採跡地は先人達の緑化への努力によって森林を喪失することなく、一千万ヘクタールの人工林が造成されてきました。とは言え、人工林など人の手によって造成された森林では、継続的に人手を掛けて健全に森林を維持していくことが、森林の恵みを得ていく上で必要です。

特に最近では、水源涵養、災害の防止、木材の生産などに加えて、二酸化炭素の吸収固定、

生物多様性の保全など、国民の森林への期待はますます多様化、高度化してきており、このような要請に応え、期待される機能に応じた多様な森林整備を地域の社会的、自然的条件に応じて着実に進めていくことが森林・林業関係者に求められています。

森林・林業を取り巻く状況が厳しい中で、昨今では伐採後に植栽されずに放置されるなど憂慮される状況も現出していますが、先人から受け継いだ森林を将来の人たちに、より良い形で引き渡していくことが、今日を生きる者の責務であることを改めて認識し、このような状況の拡大を防いでいかねばなりません。

そのためには林業の活性化が不可欠であり、これに向けた今日的課題となっている国産材の安定供給体制の整備や、生産・加工・流通の各段階でのコストの低減等に森林・林業関係者自らが取り組むとともに、環境面に配慮した多様な森林の整備や持続可能な森林経営の推進などへの取り組みを通して、国民の幅広い支援・協力をいただいでいくことが今日の森林・林業には欠かせないものとなっています。

これには、多様な森林整備のための施業技術や高密度路網による低コストの伐出技術等をそれぞれの地域の特性に合わせて改良し、普及を図っていくことが必要であり、本日お集まりの皆様をはじめ、森林・林業に関係する多くの方々にお取り組みいただくことをご期待申し上げます。

当協会といたしましても微力ではございますが、このような取り組みの促進に少しでもお役に立てるよう最新の技術情報や先進的取り組み事例の紹介などを「現代林業」等の月刊誌や、林業改良普及双書等の出版物の発行を通じて行って参りたいと考えておりますので、よろしく御願い申し上げます。

最後に、今回の育林技術交流集會のテーマであります「世代をつなぐ森林づくり」への取り組みが、本日のこの集會を契機として、全国に広く、力強く推進されますことを、心より祈念申し上げます、御祝いの言葉とさせていただきます。

本日、ここに、第32回全国育樹祭と併せて育林技術交流集會が盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

御参集の皆様方におかれましては、常日頃より、

## 歓迎のことば



久万高原町長  
**高野 宗城**

ご来場の皆さん こんにちは  
ようこそ、久万高原町へお越しいただきました。  
第32回全国育樹祭併催行事「育林技術交流集会」の開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。  
久万高原町は、西日本最高峰の「石鎚山」の麓、愛媛県の中央部に位置し、平成16年8月に1町3村が林業振興を共通の課題として誕

生した愛媛県内20市町で一番広い面積を有し、90%が森林の高原の町です。

ここは、四国霊場の二つの寺の門前町、また、旧土佐街道の宿場町、更に、久万山六千石の穀倉地帯として栄えてきました。

自然に恵まれ、澄んだ水と空気、豊饒(ほうじょう)の大地、木々の緑あり、農林業を基幹産業とし、先人達が築いてきた素晴らしい生活文化の歴史と伝統を継承発展させ、かけがえのないふるさとを次代を担う子供たちに引継ぐために「ひと、里、森がふれあい ともに輝く 元気なまち」づくりを進めております。

本日は、ご来賓として林野庁研究・保全課長渋谷様、社団法人全国林業改良普及協会長西場様をはじめ、関係の皆さま方をお迎えして「循環～世代をつなぐ森林づくり～」をテーマに、育林技術交流集会在、ここ久万高原町で開催されますことは、当町にとりましてこの上ない喜びであり、誠にご同慶に堪えない次第でございます。

また、本日と明日の2日間「木にこだわりの久万高原」をメインテーマに、第38回久万林業まつりも町内で開催されておりますので、ぜひ足をお運びいただけたらと存じます。

久万高原町も秋本番を迎えております。10月初めに西日本最高峰の石鎚山山頂から始まった紅葉がスカイラインを下り、面河溪、四国カルスト、古岩屋など、町内各地が今まさに錦色に染まろうとしています。杉や檜の人工林と調和した素晴らしい紅葉をはじめ、りんごなどの味覚狩りや、高原野菜・農産物の加工品など、安全で安心な久万高原の秋を存分に満喫して帰ってください。

終りになりましたが、この育林技術交流集会の開催にあたり、ご協力をいただきました関係機関団体の皆様に感謝申し上げますとともに、ご参会の皆様方の益々のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げ、言葉纏まりませんがご挨拶いたします。

## 特別講演

### 人生苦あれば楽あり ～我が野球人生と木づかい応援～



プロ野球日本ハム元監督  
マスターズリーグ委員会最高顧問  
**大沢 啓二**

神奈川県藤沢市生まれ。立教大学に進学し長嶋茂雄氏、杉浦忠氏とともに東京六大学で活躍。プロ野球日本ハムの監督、「球界の親分」として野球界を大いに盛り上げる。地球温暖化防止などを推進するため、国民に国産材の利用を訴える「木づかい運動」のイメージキャラクターとして、平成17年に農林水産大臣からプロ野球マスターズリーグに委嘱。大沢氏は、木づかい運動のポスターモデル、木づかいシンポジウムへのゲスト出演、試合中のオーラビジョンを活用したPRなど、リーグをあげて木づかい運動の普及活動を実施。

